

新緑のブナ・ミズナラの巨樹を見に行こう
鶴ヶ鳥屋山

実施日 2013年5月12日(日)
天候 晴れ
リーダー 鈴木 恵美子
参加者 一柳昭、涌井良明、鈴木恵好、美子、渋谷京子、小村井鋭、枝、石原勝正、小名秀計、佐藤金治、林みつ江 計9名
費用 電車 1,560円(高尾起算)
タイム 笹子駅(9:13)林道船橋沢線終点(9:38~9:42)送電鉄塔(10:45)林道(10:58~11:08)主稜線・本社ヶ丸分岐(11:38~12:20)昼食)鶴ヶ鳥屋山(13:15~13:30)丸田沢(15:06)林道黒野田線(15:10)初狩駅(15:57)
行動 6時間44分 実動 5時間47分

笹子駅を出て、山側へ向かい鶴ヶ鳥屋山という標識があるT字路を左折、林道終点に達する。前日の雨で水嵩が増し、滑りやすい沢を何度も



の山腹に出る。標識や、赤テープの目印が要所にあり、迷わずにすんだ。やはり、予備知識は大事だと痛感。ここからは胸を突

くような急登が続くが、大好きな、チゴユリに鋭気もらい、ジグザグを切って高度を上げて行く。送電線鉄塔(新しいバージョンの地形図には送電線は載っていないが、ダニのように見えるのが鉄塔だそう)に着く。間もなく林道に出る。北方に滝子山、笹子雁ヶ腹摺山が望める。林道を横切り、鉄梯子を登って、再び登山道へ。



少し傾斜の緩くなった尾根道から右手の山腹へ進み、「ウワー、目が覚める!!」と思わず叫んでしまう程の新緑のフィトンチッド(布団じゃないよ)を胸いっぱい吸いながら、主稜線(本社ヶ丸)分岐に出る。ここで腹時計が12時を指したので、楽しいランチタイム。

ランチを終えたら左(東)に行く。所々、遅咲き(狂い咲き(^_^))のミツバツツジ

が迎えてくれる。細かなアップダウンを経る。振り返ると木々の間から本社ヶ丸、三つ峠、白い雪を被ったまな、アルプスが望めた。また、ブナ、ミズナラの巨樹にも出会えた。山頂の手前の谷間の新緑は圧巻。



山頂は広葉樹に囲まれて静かだ。「鶴ヶ鳥屋山」の標識は少し朽ちかけていたが木製で風情があっていい。山名の由来は、鳥が羽を広げた形に似ているからだ。



集合写真を撮り、山頂を後にする。直ぐに足場の悪い急下り。掴まる木も少なく滑りやすい。笹子雁ヶ腹

摺山が左手に見える。傾斜が緩くなり、北東に向きを変えて下る。

平坦な尾根を進み、林道に入る。林道を右(南)へ少し行ったところからまた登山道へ入る。間もなく分岐があり、「近ヶ坂橋、初狩駅」と書かれた直進の道を



採る。丸田沢へ経の急な下りを経て、ザグに下る。途中で、登山道の真ん中に蛇! さすがの私も一瞬怯む。

丸田沢の左岸に出て、沢沿いに下り、二つ目の堰堤の手前で対岸に渡る。右手の林道へ上がり暫く行くと、今日のご褒美に満開の藤が疲れを癒してくれた。しばらく進むと近ヶ坂橋のたもとで車道に出て左折。リニア実験線の高架付近で右の車道に入り、初狩駅へ。

参加された皆さん、サポートしてくださったリーダーの方々お疲れ様、そしてありがとうございました。また一緒にお付き合い頂けたら嬉しいです。

(記・鈴木 恵美子)

(写真提供・涌井良明/石原勝正)

